

令和2年度 社会福祉法人白鳩会事業計画

昨秋、幼児教育・保育の無償化が始まり、認定こども園・保育所を経営する者や行政機関が戸惑い、課題を抱えながらの運営も半年が経過しようやく落ち着いてきたところですが、幼稚園の2歳児(満3歳)の取り込みを積極的に行うことで保育園や保育園由来の認定こども園の2歳児入園に少なからず影響を与えていることが各地で浮き彫りとなっています。

法人各園においても1号認定児の受け入れや地域の子育て支援などを充実させ、保育内容などを各方面にホームページ等を利用し積極的に情報発信をします。

【運営方針】

白鳩チルドレンセンター東大阪と白鳩チルドレンセンター八雲中において人事異動に伴い新園長が着任します。園児と保護者に不安感を与えずこれまでどおりの保育が実施できるよう職員が一丸となり施設運営ができるよう努めます。

保育人材の確保については相変わらず厳しく、各園においても自前での確保はほぼできず、人材紹介や人材派遣の会社頼りの流れは変わりありません。紹介手数料の支出など職員一人あたりの採用コストも年々増加しもっており、この状況が続くことは法人の健全な経営により影響を与えませんので、他の法人と比較し賃金などの労働環境のみならず、専門職としてキャリアアップできる職場であることをアピールできる求人活動ができるよう企画をします。

各施設保育士の確保に苦慮しており、4月当初時点では定数よりも少ない園児の受け入れでスタートせざるを得ない施設もありますので、収入減となりますが、継続して採用活動を行い年度途中での園児の受け入れや1号認定児童の受け入れにより収入の確保をします。

白鳩会が運営する各施設の保育はクラスごとに構成した園児の「一日の流れ」を基に日々運用していますが、昨年度各施設の園長・主幹保育教諭・クラスリーダーにより見直し、修正を行いました。今年度はこの修正版の「一日の流れ」に沿って保育を展開します。

大阪府内で運営する5園(白鳩チルドレンセンター東大阪、八雲中、南丘、山王保育所、ゆずり葉こども園)においては公定価格の加算を利用し、福祉サービス第三者評価事業の受審を年度後半に行います。それに伴い評価項目を利用した自己評価や保育内容の見直しと園内研修を実施します。

職員が心身ともに健康に働くことができるように、事務作業の効率化が図れるよう、各教室で園児の記録が行えるようパソコン、タブレットの導入や館内でのwi-fiの利用環境の設定を行い、超過勤務の抑制をします。